

熱帯の有用材 (10)

緒方 健

ブビンガ (Bubinga)

学名 : *Guibourtia* spp. (マメ科)

はじめに *Guibourtia* 属について簡単にのべておこう。この属はマメ科のカワラケツメイ亜科 (Caesalpinioideae) に属し、アフリカに 11 種、熱帯アメリカに 4 種ほどある。以前は *Copaifera* 属と同属とみなされたこともあるが、花や材の構造が異なるので、現在では区別されている。材の構造では、垂直樹脂道が *Copaifera* にはあり、*Guibourtia* にはない点が大きなきがいで、属を分ける十分な根拠といえる。

木材の利用上からみてアメリカの樹種には大した種類はないが、アフリカでは樹高 30 m 以上になる有用樹種が多く、熱帯西アフリカを中心として一部の樹種はアンゴラ、ナミビア、ジンバブエ、モザンビークにまでみられる。

この属の樹木は心材の色からブビンガを代表とする赤色系のものと、次回で取り上げる予定のオヴァンコール、ムテニューなどの褐色系のものに分けることができる。

ブビンガは熱帯西アフリカ低地の樹木であるが、1 種類の樹木ではなく、*G. tessmannii* Léonard (ナイジェリア東南部、カメルーン、ガボン)、*G. pellegriniana* Léonard (カメルーン、ガボン)、*G. demeusei* (Harms) Léonard (カメルーン、ガボン、ザイール) の 3 種類の樹木からなり、主要樹種はカメルーンに多い *G. tessmannii* とガボンの *G. pellegriniana* である。カメルーンではブビンガのほかエッシンガン (Essingang) ともいう。またガボンではケヴァジンゴ (Kevazingo) といい、この名称も木材市場でよく用いられる。これらの樹種はいずれも近縁で、材の構造から樹種を区別することはむずかしい。

樹木の形状：樹種や生育地によってもちがいがあがるが、一般に樹高 30~50 m、直径 80~160 cm になり、大きいものでは直径 2~3 m に達する。樹幹は円筒状で、15~20 m またはそれ以上の枝下高があり、幹の下部には板根が発達する。葉は 1 対の小葉からなり、小葉は特徴的な全縁の鎌形で、ほぼ無柄である (*G. tessmannii* では全く無柄、*G. pellegriniana* ではわずかに柄がある)。葉柄は長さ 1~3 cm。花は小花で、頂生または腋生の円錐花序に着く。花弁はなく、萼片 4、雄ずい 8~12。果実は直径 3~4 cm ほどの偏平な円~楕円形のさやで、中に 1 (~2) 個の種子がある。

木材の特徴：辺材は幅 3~8 cm で、灰白色~淡黄色~灰褐色を示す。心材は濃桃褐色~赤褐色で、紫褐色の筋が入る。木理はほぼ通直か浅く交錯する。肌目の精粗は中庸。新鮮時には不快な臭いがあるというが、乾燥すると消失する。ときに木理が著

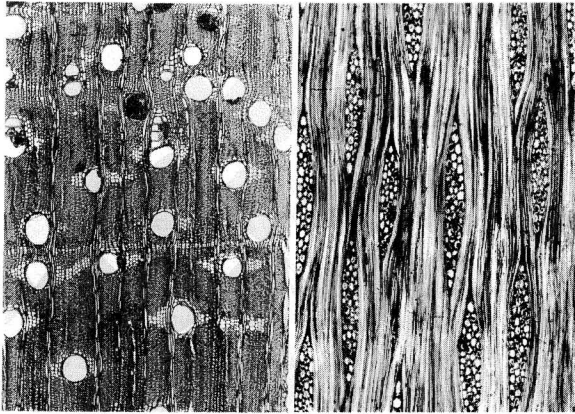


写真-1 *G. tessmannii*
木口面 (16×)

写真-2 同左 板目面
(40×)

しい乱れのために美しい杳を生じることがあり、銘木として賞用される。ガボンからケヴァジゴの名で出される材（すなわち *G. pellegriniana*）の方がカメルーンのブビンガ (*G. tessmannii*) よりも一般に杳をもつものが多く、このことから産地に関係なく杳のあるものをケヴァジゴと呼ぶ傾向がある。気乾比重 0.80~0.95。

顕微鏡的な特徴をあげると、孤立管孔の最大径は 180~240 μm 、分布数は 3~5/ mm^2 。放射組織は 1~4、5 列、多くは 3~4 列。軸方向柔組織は翼状~連合翼状で、やや不規則な間隔で帯状柔組織がある。繊維長は 1.6~1.9 mm。シリカは含まない。

木材の加工的性質としては、乾燥は難しく、時間がかかり、割れのほかに狂い、反りが起きやすい。比重の大きい割には鋸断性はよく、強度大で、耐朽性は高い。

用途としては突き板にして家具、キャビネット、室内壁面に用い、また食卓器具の柄、ブラシの柄などにローズウッドの代用にする。色がカリンに似るので、わが国ではその代用として床柱や座卓に用いる。とくに杳のあるものが喜ばれる。大径、長尺材が得られ、安価なのが利点であるが、カリンよりも桃紫色がかって落ちついた品格に欠け、また乾燥の不十分な材は狂いやすく、問題となることがある。特殊な用途として、最近ケヤキの代わりに太鼓に用いられる。例えば明治神宮、東京府中の大國魂神社、東京三鷹の八幡神社などには直径 5~8 尺のブビンガの太鼓が奉納されているが、これはケヤキの大材が少なくなったその代用というばかりでなく、ブビンガにしてはじめてこのような太鼓が可能で、赤い色や杳がまさに太鼓に適しているという。

Guibourtia 属の中でブビンガと同様の赤色系の心材をもつものには *G. coleosperma* (Benth.) Léonard (Rhodesian Copalwood: アンゴラ, ザイール, ザンビア, ローデシア), *G. leonensis* Léonard (Tofee: シエラレオネ, リベリア), *G. conjugata* (Bolle) Léonard (南アフリカ) などがある。これらの材はわが国ではほとんど知られていないが、*G. conjugata* の材はチャカテ (Chakaté) の名で一時期引きされたことがある。